

2026 年 1 月 28 日 第 693 号

新年の挨拶

一般社団法人世界連邦運動協会 会長 大橋 光夫



皆様明けましておめでとうございます。

昨年 10 月 5 日には第 36 回世界連邦日本大会が開催され、無事盛会に終わりました。杉山晋作大使による基調講演をはじめ、岸田文雄元総理のメッセージ、ご登壇されたすべての方々のご発言が非常にためになるものでした。開催準備に尽力してくださった皆様、遠方より駆けつけてくださった皆様も含め、ご参加の全ての皆様に心から感謝したいと思います。

世界連邦日本大会は世界連邦関係 6 団体が連携して開催するものです。一昨年 7 月には国内の世界連邦運動 6 団体が共同で作成した政策提言書を当時の上川陽子外務大臣と林芳正官房長官に手交致しました。こうして世界連邦運動推進日本協議会を構成する各団体の連携を深め、運動の発展を図って参りますので、本年もご協力をよろしくお願い申し上げます。

ロシアによるウクライナへの侵攻やイスラエルとハマスの問題などは終わりを見せず、人類が互いに殺し合っております。また、国内においても国外においても排外主義や外国人に対するデマ・ヘイトスピーチが広がっていることは看過できません。米国は数十にもものぼる国際機構からの脱退を表明し、さらに国連への資金拠出を削減・凍結していることもあり、今年の国連予算は前年比 1 割減となり業務への影響が懸念されております。また、米国がベネズエラを攻撃し大統領を逮捕・拘束したことは、たとえ大統領選挙に不正があり、あるいは大統領が麻薬取引に関与があったとしても明確な国際法違反です。今、国際法・国際秩序が急速に揺るがされているのが現状です。

こうした動きは国益を過度に強調し、他国をかえりみない考えによって加速されております。国益はもちろん大切ですが、世界の平和・地球の存続があってこそ国益も守られるのです。こうした時代だからこそ、私たちは人々が国家の違いを超えて平和と繁栄のために協力する世界を実現する、その大切さを訴えていきたいと思えます。

本年は午年ですが、馬のように高く飛躍し、理想に向かって駆け抜けて参りましょう。皆様、今年も何卒よろしくお願い申し上げます。

国連の危機を克服し世界連邦へ

一般社団法人世界連邦運動協会 副会長 中野 寛成

戦後 80 年を経過して、今、世界平和、地球環境、人々の生命が重大な危機に直面しています。国際連合は二度の世界大戦の悲惨な結果と反省から人類の英知として創設された平和の要(かなめ)ですが、その中

心をなす五常任理事国のうち米・露・中三か国が緊張状態にあり合意が難しく機能しなくなっているからです。



かつて世界の物理学会をリードしたアインシュタイン博士やオッペンハイマー博士は、第一次世界大戦の反省から創設された国際連盟の失敗に失望して、力による世界平和をめざし核兵器の開発を進めましたが、広島・長崎の非人道的惨状を見て、国際連盟の焼き直しの国際連合にとどまらず、より強力な平和構築の仕組みとして「世界法による世界平和」をめざし「世界議会をもつ世界連邦」を提唱されました。

それを推進するため両博士らは、核兵器を開発した物理学者によるバグウォッシュ会議も発足させました。バグウォッシュ会議は、貴重な警告と提唱を続け、昨年 11 月に広島で 39 か国、190 人が集まり「広島宣言」を発表しました。

現在の戦争や国際紛争を解決するには、何としても国連の機能を回復する必要があります。そのためには、国連の機関である国際司法裁判所と国際刑事裁判所の両所長を輩出し、唯一の原爆被爆国でもある日本が国際世論を鼓舞しリードしなければなりません。

日本の政局も激動の最中にありますが、世界平和への願いは与野党共通していると思います。

今年が一転して平和再構築の新年となりますよう切望してやみません。

「国連平和の鐘を守る会」が大阪万博記念公園で鐘打式典を開催



国連にある“平和の鐘”は、戦後中川千代治氏が大変な苦勞をして国連に寄贈したものである。氏の御令嬢にあたる高瀬聖子氏は「国連平和の鐘を守る会」を創設し、中川千代治氏の平和への強い想いを継承するために尽力している。2025 年 9 月 12 日に高瀬氏はニューヨーク国連本部でグテーレス国連事務局長とともに平和の鐘を鳴らし、10 月 24

日には大阪万博記念公園で第 9 回鐘打式典を開催した。

式典には世界連邦運動協会の中野寛成副会長も出席し、挨拶を行なった。大阪府知事の吉村洋文氏や吹田市長の後藤圭二氏などからの祝辞も代読された。世界連邦日本国会委員会の谷本真邦事務局長も東京から駆けつけ参加した。

前号に記載したように、2020 年より世界連邦関係者が中心となって実行委員会を組織し、「国連平和の鐘を守る会」とも連携しながら 9 月 21 日に「国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式」を行なっている。高瀬氏は世界連邦日本大会にも出席して下さった。「国連平和の鐘を守る会」との絆が一層深まることを期待する。

世界に目を向ければウクライナ・ガザ・イランなど各地で戦争や紛争が続いている。中川千代治氏が述べた「戦争を放棄せず力によって力を制せんとするは人間の愚かも極まれり」という言葉の意味を噛みしめる必要がある。



(塩浜 修)

「世界連邦文化教育推進協議会 亀岡大会 2025 秋」 開催

世界連邦文化教育推進協議会(世界連邦 文教)は、世界連邦宣言自治体全国協議会(世界連邦 自治体協)との共催、世界連邦自治体協の会長都市である京都府亀岡市の後援、一般社団法人 日本農業の協力で、「世界連邦文化教育推進協議会 亀岡大会 2025 秋」を11月2日、京都府亀岡市において開催。筆者は、関連団体である世界連邦運動協会理事兼国際委員長・世界連邦日本国会委員会事務局次長として参加。この大会は、自然体験と文化教育、そして平和への思想を結びつける試みとして企画され、世界連邦関係団体、自治体関係者、一般参加者などが集い、終始なごやかな雰囲気の中で示唆に富む時間が共有された。

午前の第一部では、亀岡駅前園場にて「収穫祭および稲刈り体験」が行われた。晴天のもと、亀岡市の地元の方々の協力で、参加者は実際に稲を刈り取り、日本の農業文化や自然との共生のあり方を体感した。世代や立場を超えて同じ作業に取り組む姿は、地域社会の原点を再確認する象徴的な光景であり、世界連邦運動が掲げる「共生」という理念を、言葉ではなく体験として共有する場となった。

第二部は、Jリーグのサンガ・スタジアムのVIPルームに会場を移し、講演会および懇親会が開催された。世界連邦文教事務局長の大西千晶氏の司会で、世界連邦自治体協会長の桂川孝裕亀岡市長、世界連邦文教理事長の穴野史生扶桑教管長、日本農業のアドバイザーである“灘の酒造財閥当主”の第十二代嘉納治郎右衛門菊正宗酒造社長らが挨拶をされ、日本の農業や文化を支える立場からのお言葉をいただいた。



第二部のメインである講演会「悠仁さま、成年式を祝う」の講師として登壇したのは、秋篠宮家に最も近い皇室ジャーナリストとして知られる元毎日新聞編集委員の江森敬治氏。講演では、悠仁(ひさひと)親王殿下の成年式を祝うとともに、秋篠宮家が受け継ぐ平和への思いなどをテーマに、悠仁さまのこれまでのご成長の

歩み、そして皇室が未来に担う象徴的役割について、丁寧かつ抑制の効いた語り口で紹介された。秋篠宮家の公務や姿勢が平和への思いを国民との距離感を大切にしながら受け継がれてきたこと、そのことが具体的なエピソードを交えて語られた。特に印象的だったのは、天皇を国民の象徴として捉え、男系男子で皇統をつないでいくとするならば、悠仁さまのご存在は日本の未来の希望として、とても大切な存在である、ということを強調されたことであった。

またこの第二部では、地元食材を中心とした食事を囲みながらの懇親会が行われ、参加者同士の交流が深まった。自然、文化、地域、皇室、平和、そして世界連邦という一見異なるテーマが、亀岡という土地の文脈の中で有機的に結びつき、運動の思想が生活感覚とともに共有される場となった。

本大会において、世界連邦運動が国際政治の議論にとどまらず、地域社会・文化の現場で静かに着実に根を張っている様子を印象づけたことは、大きな成果であったと言えよう。

(谷本 真邦)

世界連邦日本宗教委員会主催 「第 44 回 世界連邦平和促進 全国宗教者・信仰者 念法眞教大会」開催

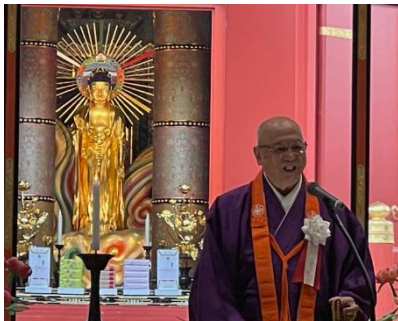
世界連邦日本宗教委員会が主催する「第 44 回 世界連邦平和促進 全国宗教者・信仰者 念法眞教大会」が、2025 年(令和 7 年)11 月 26 日、大阪府大阪市鶴見区の念法眞教総本山・小倉山金剛寺において開催された。



この大会は、世界連邦関連団体である超宗派の世界連邦日本宗教委員会が毎年各地の宗教施設を回って開催してこられ、今回が 44 回目である。筆者は、別の関連団体である世界連邦運動協会理事兼国際委員長(兼世界連邦日本国会委員会事務局)として毎年参加している。会場を提供してくださった念法眞教は、今年が開教

100 年であり、これを記念する節目の行事として今回の大会が位置づけられた。この場所に、全国から宗教指導者や信仰者など約 500 人が参集した。

まず大会前日の 25 日、帝国ホテル大阪で前夜祭として懇親会が催され、世界連邦日本宗教委員会会長の田中恆清・神社本庁総長をはじめ、宗教界のお歴々が一堂に会し、宗派を超えて、なごやかに意見交換が行われ、翌日の大会に向けて相互理解を深めた。



大会当日は、午前中、「世界平和の祈り」が拝殿礼拝堂にて行われた。参加者は宗派の違いを超えて祈りを捧げた。名誉大会長でもある念法眞教・桶屋良祐燈主桶屋燈主は、宗教者が神仏の導きに沿って生きる自覚の大切さや平和を願い続けることの意義を挨拶で述べられ、会場は厳粛な雰囲気包まれた。

お昼休みには、「現世に極楽浄土を建設する」として建立された総本山金剛寺の壮麗な諸堂宇や、念法眞教 100 年の歴史を知ることのできるミュージアムの見学会も行われた。

午後の開会式には、本大会協賛団体でもある日本宗教連盟の理事長・日谷照應全日本仏教界理事長をはじめとする方々や世界連邦日本宗教委員会の関係者など、各宗派を代表する宗教指導者が並んで登壇され、宗教間連携の広がりを印象づけた。また世界連邦運動の日本国内関連団体の連絡会である世界連邦推進日



本協議会及び世界連邦運動協会の大橋光夫会長の代理として世界連邦運動協会の木戸寛孝事務総長が登壇し祝辞を代読した。また世界連邦日本国会委員会会長の額賀福志郎衆議院議長の祝辞も掲載されているパンフレットを見た念法眞教信徒の方々が「衆議院議長をされている方も世界連邦運動に参加しているのか」と驚かれていたのも印象的であった。宗教界のみならず各界の枠を超えて指導的立場にある方々が、世界連邦という理想に向かって、連帯と対話の重要性を共有できたのは素晴らしいことである。

この大会では、麗澤大学特任教授の江崎道朗氏が講演を行なった。保守の論客である江崎氏は「皇室と戦後 80 年」と題して、日本の終戦後の近現代史を踏まえつつ、国民に寄り添いながら日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たしてきた昭和天皇、上皇陛下、今上陛下と「天皇 3 代」のお姿などを語った。

本大会の最後には、本大会のテーマ「将来への希望 ―若い世代に託せることとは―」という宣言文の採択に移った。「宗教者・信仰者は、不安を未来に残さず、この地球に、人類に、明るい希望を託すことが使命であります。戦後 70 年の山梨大会で核兵器廃絶と恒久平和の実現を目指すと宣言しました。10 年の歳月を経た終戦 80 年、いまだに世界平和の実現には至っていません。しかしながら、私たちは世界平和への希望を捨てるわけにはいきません。歩みを止めることはできません。今を託されているわたしたちは皆様とともに、一歩でも前に踏み出し、若い人たちに希望と託せるように邁進いたします」という文案を、比叡山延暦寺横山照泰長騰が読み上げられ、参加者の総意として拍手により採択された。



(谷本 真邦)

真珠湾慰霊関連行事 2025 に参加して

筆者は、毎年 12 月上旬にアメリカ合衆国ハワイ州で開催される真珠湾慰霊関連行事に、今年も参加。この式典参加は二つの行事からなる。一つは世界連邦日本宗教委員会が組織するハワイ平和使節団の行事に参加したこと。もう一つは日本国とアメリカ合衆国との合同の公式慰霊式典である Lives Remembered: A tribute to fallen of Pearl Harbor にお招きいただいて参加したことである

まずは、世界連邦日本宗教委員会の平和使節団として各関連施設を訪問した。特筆したいのは、アメリカ軍カネオヘ基地を訪問した際に基地内の慰霊施設で平和の祈りが行われることである。これら一連の祈りは、世界連邦日本宗教委員会のメンバーである神道・仏教をはじめ宗派を超えた指導者の方々が各々の様式、作法により行われる。これはいつも筆者が感じていることであるが、日本のように政治経済が安定すれば、宗派が違って争いが起こることはなく心をついにできる。「宗教があるかぎり戦争はなくなる」という意見があるが、戦争の要因となったり政治に利用されて戦争に加担したりせず、世界平和に大いに貢献する「真の宗教」の在り方は、この世界連邦日本宗教委員会の超宗派の祈りの姿に示されている。ホノルル市役所を訪問したときは、クリスマスシーズンだけに、荘厳な庁舎に飾りつけがしてあり大変美しかった。綺麗なだけでなく各国の民間からも飾りが寄附されていて、それも印象的であった。夜の懇親会では例年どおり現地の名士や日系の宗教者の方々とも親しくなった。

真珠湾攻撃当日である 12 月 7 日早朝からアメリカ合衆国主催の真珠湾攻撃 84 年式典にも例年通り参加した。その時間に日本軍が攻撃した方面から空軍の戦闘機が飛んでくるのであるが、これがデモンストレーションではなく、本当に爆撃があったのかと思うと、恐ろしさに震えた。こんなことは二度と起きないようにという気持ちが改めて込みあがってくる。



翌日には、真珠湾フォード島・統合基地内で開催された日本国(在ホノルル総領事館)・アメリカ合衆国(海軍ハワイ方面司令部)主催「真珠湾慰霊式典(正式名称 Lives Remembered: A tribute to fallen of Pearl Harbor)」には、世界連邦運動協会国際委員長及び世界連邦日本国会委員会(会長額賀福志郎会長の代理)として参列した。ブランジアーディ・ホノルル市長、イゲ前ハワイ州知事、レザーマン真珠湾国立記念館館長をはじめ、日本国の外交関係者、アメリカ合衆国の軍関係者、退役軍人、日系人等が参加。ま

た長らく慰霊の祈りと前期の平和使節団を続けてきた世界連邦日本宗教委員会から田中朋清事務局長らが参加された。

日本国側主催の長徳英晶総領事(大使)は、以前、氏が国際協力局審議官時代に筆者のSDGsのプロジェクトなどで親しく一緒したので、ハワイでの再会を喜んだ。このイベントでは、長徳総領事、アメリカ合衆国側主催者としての海軍提督コリンズ司令官と共に、筆者も登壇。例年同様「犠牲者に心より哀悼の誠を捧げ、ご遺族に深い同情の意を示し、またアメリカ合衆国の寛容さに感謝し、本式典が両国の和解と友好の象徴となつてほしい」という旨を伝えた。

このような行事は、かつて敵同士であった国でも現在同盟関係にあれば、過去に悲しい歴史があっても現在は寛容になれるということを示してくれる。これは、歴史問題を抱える、他の戦争をした国々も、今からでも友好関係を構築すれば和解ができるという証明であり、現在の複雑な国際情勢に対して大きな教訓を与えてくれる。また、筆者は、アメリカ軍の将校から「Toys for Tots」という、アメリカ軍将校・軍人・退役軍人などが警官を伴い、オートバイでパレードをし、子どもたちにクリスマスにおもちゃをプレゼントするため寄附を募るという大規模チャリティーへの参加に(誘ってくれた人曰く)誘われた唯一の日本人であった。都合で参加は叶わなかったが、アメリカ軍将校の友人は毎年どんどん増えている。そうしたことから、この恒例の行事参加によって世界連邦への道を探求していることを実感できた。これらの和解を実現された先人たち、筆者の参加を支援していただいた関係各位に感謝の意を示したい。

(谷本 真邦)

世界連邦関係各団体の動き

- ・1月1日 世界連邦平和を考えるフォーラム学習会(オンライン)
- ・1月17日 はちどり倶楽部新春フォーラム
- ・2月11日 富士山大賞表彰式(世界連邦文化教育推進日本協議会共催)
- ・2月22日 第54回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール表彰式

編集後記

☆第54回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクールにおいて、優秀作品34点が選出されました。これらの作品は、2月14日(土)~27日(金)、東京・市ヶ谷のJICA地球ひろば(2階)にて展示いたします。ぜひご来場のうえ、子どもたちの力作をご高覧願います。なお、表彰式は2月22日(日)に同会場にて執り行われます。(川口)

☆衆議院選挙とは別に、私の住む自治体の選挙もある。「外国人が増えて犯罪が増えている」というデマを堂々と述べる候補が増えていて頭が痛い。刑法犯罪が年々減少しているのは統計上明らかである。ネットに流れる偽情報に惑わされない判断力が今後一層重要になる。(塩浜)

☆大橋会長や中野副会長のご寄稿でも言及されているように、現在の国連は危機に瀕している。国連の安全保障理事会の常任理事国が第二次世界大戦の主要戦勝国である米英仏露中で占められ、しかもこの5大国が拒否権を保持しているのは、国連を改革して世界連邦を実現する構想において最も障害となる問題点である。いまや現実にはさらに深刻となり、5大国の一つロシアが隣国のウクライナを武力侵略し続け、国連設立の立役者であったアメリカが国連を軽視し、国際法違反を繰り返すに至った。かつて中国・韓国・東南アジア諸国を侵略し、米英などの連合軍と交戦した結果、悲惨極まる敗戦国となった日本は、その反省のもと、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」という三大原則を基本的枠組みとする日本国憲法を定めた。日本のフェデラリストには、普遍性に富む「日本国憲法の三大原則」を世界に広げて世界連邦の実現に貢献する使命がある。(平口)

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦運動協会 本部事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-15-17 リッツ虎ノ門4F-BC

電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443

E-mail info@wfmjapan.org